

富山経協



シママチキクザクラ (解説・20ページ)

CONTENTS

- 2 2014年度事業について
- 3 2014年度 事業方針
- 4 2014年度 富山経協 年間事業活動予定表
- 6 TOP INTERVIEW
魚岸精機工業 魚岸力社長
- 8 調査報告
2014年4月新卒者の採用に関する調査結果
- 10 幹事会、理事会 (報告)
- 11 お花見ナイトパーティ (報告)
- 12 Keikyo行事レポート
- 15 参加者NOTES
- 19 新会員紹介
- 20 会員の動き
- 21 景況指標
- 22 おしらせ・事業予定

2014年度事業について



一般社団法人 富山県経営者協会

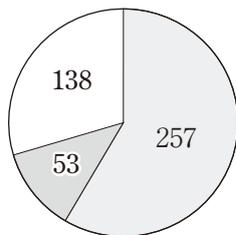
会長 稲垣 晴彦

今春は10年ぶりに明るい兆しが見えてきて、ベースアップに踏み切った企業もあったようです。富山県経営者協会としては、長く続いた縮小再生産から拡大していくには、企業の現場で価値創造に携わる個々人の能力、いわゆる現場力と意欲を継続的に向上させていくことが肝要と考えており、人材への投資は、賃上げだけではなく労働環境改善や教育の充実にも行うべきで、設備投資を含め何を行うかは、景気回復の状況が異なる各企業毎の判断によるものとなりました。

北陸新幹線の開業までいよいよ一年を切りました。開業による人の流れのほか、産業構造の変化も予想されます。当協会は、近隣県の経済界ならびに行政との連携を深めながら、自らの仕事を通じて地域の未来づくりを行っていただいている皆様のお役に立てるよう活動してまいります。

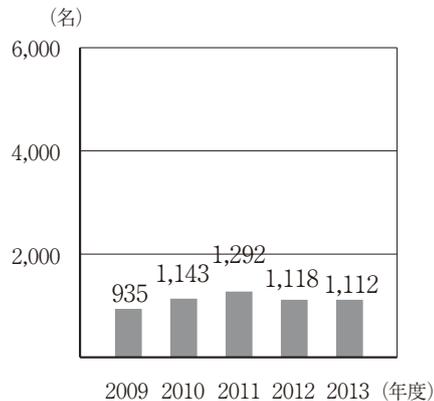
富山県経営者協会の現況

会員数：448社
(2014年4月1日現在)

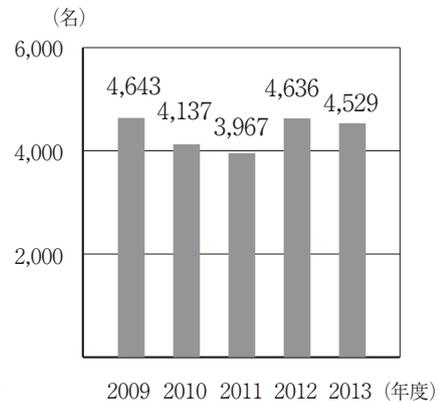


富山地区
東部地区
西部地区

総会、理事会、各委員会の
参加人数推移



講座・セミナー、見学会の
参加人数推移



2014年度 事業方針

財務省が発表した2月貿易統計速報によると、貿易収支は2兆7,900億円の赤字となり1979年の統計開始以来最大の赤字となった、また消費税が4月より引き上げられたことは消費動向や企業業績に変化が生じるのではないかとの懸念があるが、5.5兆円の経済対策が講じられており、昨年度から続いている企業業績の改善による経済の好循環が実現すれば、消費税率引き上げの影響も抑えられデフレからの脱却も見えてきている。

政府には、高いレベルでの経済連携協定の実現、大胆な規制・制度の断行をはじめとする日本の競争力の強化と需要の喚起につながる諸制度を早期実現し、力強い経済成長を軌道に乗せ、さらに早い時点での経営収支の黒字化が日本再生に重要である。

一方、経営者はリーダーシップを発揮して明確なビジョンのもと、企業業績の改善を進めることにより、設備投資や雇用の拡大、処遇改善につなげていかなければならない。そうした日々の努力に裏付けられた企業の存続・発展が社会に付加価値として還元され、地域の安定につながる。

一般社団法人富山県経営者協会は、富山県という地域社会と、経済界を担う経営者という観点に立ち、地域の業種や規模を問わない経営者の集う「経済団体」としてのあるべき姿を常に見直し、行動し、結果を出すことにより、その役割を果たしていく。

具体的には、多様化する会員ニーズに対応した経営課題の研究、企業活動の源である社員への研修等の教育提供、労使関係の充実を目指した人事制度などの提案、会員同士の情報交換と人脈づくりの場の提供などより、会員企業の更なる繁栄につなげていく。また、地域社会における民間の経済団体の代表格である位置づけの責任を果たすため、行政の雇用安定や地域振興の取り組みへの支援を行い、他経済団体との連携を深めて、地域社会の発展に努める。

以上の実現を目指し2014年度の事業活動を以下のとおり行なう。

- 1 企業の存続なくして雇用はありえない。先の見えない企業環境において参考となる他社の取り組み・仕掛け、行政の雇用や人材育成、海外展開等の支援制度の情報提供活動を進めていく。
- 2 企業の繁栄の源泉は究極的には人材力である。会員企業各社の実情に適合し、そこで働く人がより働きがいを感じ、自ら能力を向上する人事処遇・教育制度の実現に向けての支援を強化する。
- 3 単独の活動には限界がある。行政並びに他の経済団体との連携を通して、当協会の各種事業の強化と充実を図っていくとともに、協会の枠を超えた人脈作りにつなげていく。
- 4 公益性を高める活動を強化する。研究成果やアンケート結果などをマスコミやホームページで情報提供し地域社会の発展につなげる。そのために会員増強と会員相互協力の場合である各委員会活動への責任者の参画を促進する。

2014年度 富山県 経営者協会

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
会 議		理 事 会 (24日)	定 時 総 会 (26日)		会長・副会長会議 (4日) 北陸三県協議会 (11日)		理 事 会 (5日)
事 業			講演会、座談会 (26日)		西部地区会員懇談会 (4日)		富山地区会員懇談会 (5日)
広 報		富山経協4月号		富山経協6月号 講演録「不易流行」		富山経協8月号	
調 査		新入社員意識調査	経営課題調査	夏季賞与調査 新規学卒者初任給調査		女性意識調査(第1回)	女性意識調査(第2回)
委 員 会	総務交流	会議		定例委員会		定例委員会	
		活動					県外企業見学研修会 富山経協ゴルフコンペ
	人事・労務	会議	幹 事 会	定例委員会		定例委員会	
		活動			労働法関連法制 研究部会		労働法関連法制 研究部会
	教育	会議		定例委員会		定例委員会	
		活動		研究部会		研究部会	
	品質管理	会議	定例委員会			定例委員会	定例委員会
		活動				委員企業見学会	
	環境	会議		定例委員会			定例委員会
		活動		講 演 会	環境保全活動	情報交換会	県との情報交換 情報交換会
	会議		定例委員会			定例委員会	
	活動		企業見学研修会				
	会議	定例委員会		定例委員会		定例委員会	
	活動	ISO規格改定勉強会			企業理念見学会		
講 座 ・ セ ミ ナ ー	階層別	新入社員講習会 (2日)		中堅社員活性化 コース(4日・5日) <2日間> 仕事の基本「報連相」 セミナー (24日)	監督者(係長・主任 班長)基礎コース (16日・17日) <2日間>	女性社員活性化 セミナー (21日)	女性リーダー活性化 セミナー (3日) 管理職マネジメント研修 (9月～2015年5月) <12日間>
	共通		ビジネス・マナー 習得セミナー (23日)		方針管理実践講座 (24日～26日) <2泊3日>	なぜなぜ分析活用 セミナー (5日) TQM経営者 ミーティング (下旬)	ヒューマンエラー 対策講座【実践編】 (10日・11日) <2日間> 改善力養成セミナー 【基礎編】 (18日) ISO14001 内部監査員養成講座 (17日・18日) <2日間>
	労務管理		人事・労務管理セミナー 第1回 (28日)	労働法実務講座 第1回 (18日)	人事・労務管理セミナー 第2回 (11日)		労働法実務講座 第2回 (11日)
	品質管理	品質管理入門講座【基礎編】 (4月17日・22日、5月8日・15日) <4日間>					
		開発現場で役立つ 品質工学活用講座 (24日・25日)	実践しながら学ぶ 統計的手法活用講座 (30日～12月5日) <14日間>				
	生産管理			IE手法による生産 現場の改善セミナー (10日)		ものづくりと現場改善実践 セミナー (25日・26日) <2日間>	
	購買管理						
営業	営業力基礎セミナー (22日・23日) <2日間>						
経理							

年間事業活動予定表

10 月	11 月	12 月	2015年 1 月	2 月	3 月	
	会長・副会長会議 (7日)	富山・長野合同協議会 (5日)			理事会 幹事会	会議
	東部地区会員懇談会 (7日)		経済4団体新春互礼会 (5日)			事業
富山経協10月号		富山経協12月号	富山経協新春号	富山経協2月号		広報
経営課題調査	冬季賞与調査 新春アンケート			新卒者採用調査	春季賃金改定状況調査 2014年度調査報告書	調査
定例委員会		定例委員会				会議
	会員交流ボウリング大会			経営者勉強会		活動
	幹事会	定例委員会		定例委員会		会議
	労働法関連法制 研究部会			労働法関連法制 研究部会	連合富山との懇談会	活動
	定例委員会	定例委員会				会議
	研究部会	研究部会				活動
		定例委員会		定例委員会		会議
県外企業見学研修会	ものづくり品質管理 セミナー(講演会)			委員企業見学会		活動
		定例委員会			定例委員会	会議
環境保全活動 情報交換会	県外企業見学研修会 情報交換会	環境関係セミナー			県内企業見学研修会	活動
		定例委員会		定例委員会		会議
		定例委員会		講演会		活動
企業理念見学会						会議
		定例委員会				活動
係長・主任実践コース 第1回(7日・8日) <2日間> 若手社員活性化コース (9日)	管理職基礎コース (7日・8日) <1泊2日>			係長・主任実践コース 第2回(17日・18日) <2日間>		階層別
ヒューマンエラー 対策講座【応用編】 (10日) <2日間> 事務間接部門の効果 的業務改善の進め方 セミナー(23日)	コスト改善力実践 セミナー(14日) ISO9001 内部監査員養成講座 (6日・7日) <2日間>	「5S+目で見える管理 活動」実践セミナー (2日)		CS(顧客満足) 基礎セミナー (下旬)	改善レベルアップ セミナー【応用編】 (19日)	共通
	労働法実務講座 第3回(19日)			労働法実務講座 第4回(26日) 春季労使交渉セミナー (上旬)		労務管理
			品質管理入門講座【応用編】 (1月~2月)<4日間>			品質管理
						生産管理
					購買管理実践 セミナー(上旬)	購買管理
						営業
経理・財務の基礎 セミナー(下旬)						経理

型やぶりに、チャレンジ ファブレス化へ動き出す

魚岸精機工業株式会社
代表取締役社長

魚岸 力 氏



県内で最初の金型メーカーです。

父の魚岸力男は戦前、東京で金型職人として働いていました。太平洋戦争で召集され、復員後、1946年にふる里の高岡市で「魚岸鉄工所」を創業しました。金型メーカーとしては富山県初、北陸3県でも第1号だと思います。

当初は鍋・釜の修理がほとんどで、続いて仏具や花器の加工、板金プレス用の金型を作り始めました。経済の復興とともに、プラス

チック成型用金型の需要が増えてきましたが、その金型メーカーは県内で当社だけだったようです。

アルミ用金型製造のきっかけは。

1960年代、富山新港にアルミの精錬工場ができ、アルミ産業が集積し大量生産の時代となり、ダイカスト製造が始まりました。当時、日本にダイカスト金型の製造技術がなく、当社に国産化の相談がありました。工場長が先進地のドイツへ半年間渡って学び、帰国後も

約2年間、試行錯誤を繰り返しながら製造技術を獲得していきました。アルミダイカスト向け金型の製造は北陸初だと自負しています。

— R & Dで独自技術—

現在の事業展開は。

アルミダイカスト用の金型が中心で、主に自動車部品向けに95%、航空機の精密部品用なども製造しています。

数年前から半凝固状態のアルミを用いた鑄造（SSF鑄造）向けの金型を製作しており、これができるのは国内唯一です。これもお客様からの要望がスタートだったのですが、特許を持っているアメリカの会社で技術を修得しました。

また6年前から取り組んでいるのが銅のダイカスト金型です。銅の融点は約1,100℃で、アルミよりもかなり高い。その分、金型への負荷が大きく、この技術を持っているのはドイツのシーメンス社だけなのですが、当社もあと一歩のところまでできています。

最新技術に積極的に取り組んでおられます。

創業当初から、困っているお客様と一緒に考えて、問題を解決するように仕事をしてきたので、メーカーさんから直接依頼を受けます。その分、他社が嫌がるような難しい仕事がほとんどですが、そこに当社の存在意義があると考え、逆にどこでもできるような仕事はあまりやりたくありません。

海外に進出しておられますね。

2002年にタイ・バンコクに営業所を設置し、2年後には生産会社のユー・モールド・タイランドを設立しました。今年で10周年です。

また中国では2011年に浙江省平湖市に、日本電産さんから要望を受け合弁会社を設立しています。

こちらは日本電産さんのマネジメントで、当社は製造の管理を担当しています。

タイ進出のねらいは。

当初は日本で受注した金型の製造原価を下げるのがねらいで営業所を設置し、製造は現地の金型メーカーに出しました。ところが出来てきた金型は安かろう悪かろうで使いものにならない。そこで自己資本で現地工場（ユー・モールド・タイランド）を設立し、自社生産に切り替えました。日系自動車メーカーの東南アジア工場向けに製造しています。

ーチャレンジ精神が強みー

国内の役割はとなるとお考えですか。

加工する機械が同じなら、タイでも中国でも日本と同じものが出来るはずなのに、そうはなりません。日本人にはどうすれば良いかを考え挑戦する気風があり、「良いもの」を「より安く」、「より早く」作ることにチャレンジしてきました。過当競争を引き起こしているという面もありますが、このチャレンジ精神が日本の強みです。

また海外展開はあくまで日本を維持発展させることがベースになければならないと感じています。海外に工場を作って、日本を縮小するというのでは本末転倒。これからは「規模の拡大」よりも、

「付加価値の向上」を重視していきたいと考え、国内工場では5軸同時加工機など高性能マシンを導入し、高付加価値金型を手掛けています。

付加価値は機械が作ってくれるのではなく、あくまで機械に指令する人間によって高められます。ここに日本の強みがあると感じています。人材の育成と、いかにやる気にさせるかが大切です。

人材の登用で工夫されているそうです。

私が社長に就いてから、役職者は1年間の任期とし、社員で選んでいます。それまでは会社が任命していたわけですが、業績などで責任を追及すると「好きでなかったわけでない」などのやり取りがあり、人間関係にも影響しました。そこで1年任期とし、さらに自薦もしくは他薦でセクションごとを選んでもらっています。1年なら何とかやれるだろうし、また自分達で決めたりリーダーなので簡単にやめられない。全員で考えるようになりました。

今後の展望をお聞かせ下さい。

少子高齢化で人口減少の局面に入り、日本の市場は縮小していきます。機械があれば世界中どこでもものが作れる時代で、今まであった仕事も減っていくことが予想されます。

当社はこれまでものづくりに特

化し、全工程を内製化してきました。今後はものづくりに関わる幅を広げ、営業と設計、それとメンテナンスなどのアフターサービスに力を入れていくべきだと考えています。自社製造は付加価値の高いものに特化し、簡単なものは外注する。営業は「言われたものを作る」のではなく、お客様との信頼関係を築き、状況やニーズを把握して、「一緒に付加価値を作る」ための提案をしていかななくてはなりません。3年計画で、製造業でありながらもものを作らない「ファブレス企業」として生まれ変わりたいと思っています。

「型やぶり先進企業」を標榜しておられます。

金型に固執せず、型にはまらず、技術と知恵をダイナミックに融合し、お客様と共に付加価値を高めていく、ピリリとからい会社を目指しています。

座右の銘は

「天使のように繊細に、悪魔のように大胆に」。私はこう見えても意外とデリケートなんです(笑)。その時々、色々考えながらも、一旦やると決断したら、脇目も振らずに行動あるのみです。

会社概要

魚岸精機工業株式会社

創業：1946(昭和21)年
所在地：射水市北高木118-1
資本金：4,500万円
事業内容：ダイカスト金型・アルミホイール金型の設計・製造・技術コンサルティングサービス
従業員数：46人(2014年2月現在)
売上高：10億円(2014年5月期予想)
事業所：関東営業所、
UOGISHI (THAILAND) Co.Ltd、
U Mold (THAILAND) Co.Ltd
合弁会社：日本電産魚岸東測(平湖)有限公司
URL：www.uogishi.co.jp



世界に広がる魚岸精機工業の製品

略歴

1950(昭和25)年7月生まれ。高岡市出身。高岡東高校(現・高岡向陵高校)卒業、名古屋の金型メーカー勤務を経て、1969年魚岸精機工業(株)入社。1980年取締役、1990年常務を経て、1991年7月から現職。

2014年4月新卒者の採用に関する調査結果

全体は前年比13.8%増、非製造業は17.8%増

2015年採用はさらに増加の見通し

当協会では標記調査結果をまとめた。これによると、2014年4月新卒者の採用実績は、全産業では前年比13.8%の増加となった。産業別の内訳では、製造業が9.2%の増加、非製造業が17.8%の増加となっている。

また、2015年4月の採用予定数については、具体的数値で回答があった企業で見ると、全産業では2014年4月の採用実績に対して16.9%の増加予定となっている。産業別の内訳では、製造業が13.5%の増加予定、非製造業が19.6%の増加予定となっている。

〔調査対象企業等〕

調査対象は、当協会会員企業441社（2月1日現在）。221社から回答をいただいた（回収率50.1%）。内訳は製造業115社、非製造業106社である。

この調査は1995年より毎年行っているもので、今回は20回目となる。

■新卒者の採用状況

1. 2014年4月採用実績

新卒者の採用状況を全産業・全学歴計で見ると、2013年4月の1,655人に対して2014年4月は1,883人で228人増加（+13.8%）となった。

産業別で見ると、製造業では2013年4月の780人に対して2014年4月が852人で72人増加（+9.2%）、非製造業では2013年4月の875人に対して2014年4月が1,031人で156人増加（+17.8%）と、製造業よりも増加幅が大きかった。

次に、学歴別にみると、大学院卒が2013年の210人から2014年の197人（13人減、▲6.2%）と減少した以外は、すべての学歴で増加している。増加数が最も多かったのが大学卒で114人（762人から876人、+15.0%）、増加率が最も高かったのが短大・高専卒で24.4%（90人から112人、22人増）であった。（図表1）

2. 2015年4月採用予定

2015年4月の採用予定数について、具体的数値で回答があった172社の合計は1,599人で、同じ172社の

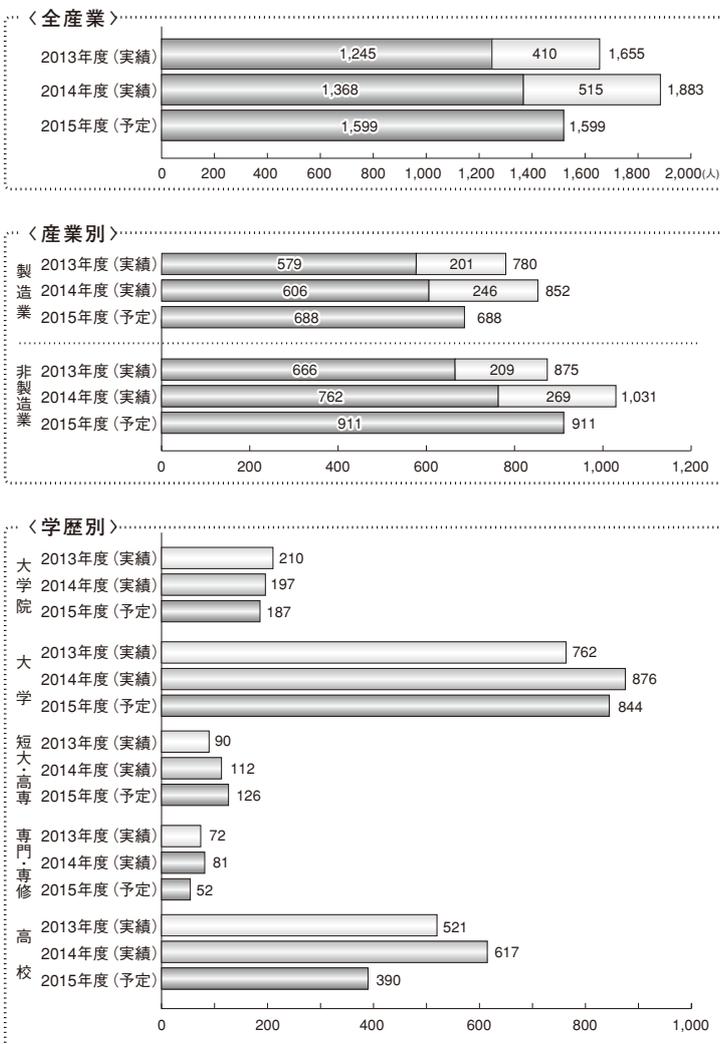
2014年4月の採用実績1,368人に対して231人増（+16.9%）となっている。また、2015年4月の採用予定者数を未定としている企業が49社（2014年4月の採用実績515人）あり、これらの企業についても同様に増加が期待される。

産業別に比較してみると、製造業では2015年4月の採用予定者数について具体的数値で回答があった91社の合計は688人であり、同じ会社の2014年4月の採用実績606人に対して82人増（+13.5%）となっている。業種別では「一般機械器具製造業」（206人）と「金属製品製造業」（116人）が多くなっている。

一方、非製造業では、2015年4月の採用予定者数について具体的数値で回答があった81社の合計は911人であり、同じ会社の2014年4月の採用実績762人に対して149人増（+19.6%）となっている。業種別では「金融・保険業」（280人）と「卸・小売業」（153人）が多くなっている。（図表1、表2）

(図表1)

新卒者の採用動向



(表2)

2014年度業種別採用予定状況

(単位:人)

産業区分	回答企業数		採用予定人数
		うち未定	
食料品製造業	1	0	0
繊維工業	4	1	13
パルプ・紙・紙加工品製造業	5	4	0
印刷・同関連業	5	2	15
化学工業、薬品製造業	21	5	93
プラスチック製品製造業	10	4	45
鉄鋼・非鉄金属製造業	4	1	36
金属製品製造業	19	1	116
一般機械器具製造業	22	4	206
電気機械器具・電子部品製造業	12	1	85
輸送用機械器具製造業	6	0	57
その他製造業	6	1	22
製造業計	115	24	688
建設業	19	2	51
電気・ガス業	3	1	135
運輸業、倉庫業	12	3	51
情報サービス・通信業	9	3	141
卸・小売業	33	6	153
金融・保険業	7	2	280
サービス業、その他	23	8	100
非製造業計	106	25	911
全産業計	221	49	1,599

■中途採用の状況

2013年中(1~12月)に中途採用を行った企業は、221社中169社(76.5%)であった。2013年中の採用実績は3,477人となっている。

また、中途採用者のうち正社員として採用されているのは、3,477人中904人(26.0%)であった。

■派遣労働者の状況

2013年中(1~12月)に派遣労働者を採用した企業は、221社中115社(52.0%)であった。2013年中の採用実績は3,858人となっている。

幹事会

3月3日(月)16時から、富山電気ビル4階「光の間」で、67名が出席して幹事会を開催した。

稲垣会長の挨拶のあと、下記について報告があった。



(1) 2013年度事業報告の審議

定時総会は、5月16日開催した。2012年度事業・収支決算、2013年度事業計画予算、公益目的支出計画実施報告書、役員改選にともなう理事監事選任、IT・インフラ委員会の設置について審議し承認された。

理事会は、3回開催した。本日幹事会終了後に第4回理事会を開催する。

事業推進機関会議は、会長・副会長会議を2回、開催した。会員懇談会は7月に西部地区、9月に富山地区、11月に東部地区と、3回開催した。

広報調査活動は、機関紙を年6回発行、小冊子は各調査を取りまとめた年度調査報告書、環境委員会研究部会報告書を発行した。

調査活動は、定期調査7件、緊急調査2件を実施した。

次に、各委員会活動について社内総務交流委員会委員長、綿貫人事・労務政策委員会委員長、金岡教育委員会委員長、町野品質管理委員会委員長、三鍋環境委員会委員長、守山経営企画委員会委員長より報告があった。

(2) 2013年度正味財産増減案報告の審議

受取会費は、ほぼ予算どおり約47.9百万円、事業収益は約48.9百万円、雑収益は約1.0百万円となり、経常収益計は、97.9百万円を見込んでおり、これは予算に対して約1.7百万円増となる。

一方、経常費用は定年対象者の後継者採用による人件費増等にて

104.0百万円となる見込みであり、この結果、評価損益等調整前当期経常増減見込み額はマイナス6.0百万円となり、予算に対して約1.5百万円の赤字増となる。

以上を受けて、当期一般正味財産増減額は、マイナス6.0百万円となる見込みである。

(3) 2014年度損益予算案報告

受取会費は約48.3百万円、事業収益は33.0百万円、委員会事業収益は、約49.7百万円とし、計約99百万円で予算を組んだ。

一方、経常費用は、消費税増を見込み約104.5百万円とした。この結果、評価損益等調整前当期経常増減額はマイナス5.5百万円となった。

以上3議案について報告された。

理事会

3月3日(月)17時から、富山電気ビル4階「寿の間」において、稲垣会長はじめ副会長7名、専務理事、監事3名が出席し、理事会を開催した。

(1)2014年度暫定予算承認の件、(2)新会員承認の件について審議し、承認された。



◆ 訃 報 ◆

社団法人 富山県経営者協会 第4代会長
元三協アルミニウム工業株式会社 社長

戸田 清一氏

2月12日、ご逝去されました。
享年83歳。

1991年～1995年、当協会の会長を務められたほか、日本サッシ協会理事長、富山県公安委員長など多くの要職を歴任され、多大な功績を残されました。

謹んでご冥福をお祈り致します。

♡ 婚活イベント初開催！

総務交流委員会

4月12日(土)、婚活イベント「お花見ナイトパーティ」を、会員企業の社員限定・男女合計40名が参加して、富山電気ビルディングで開催した。

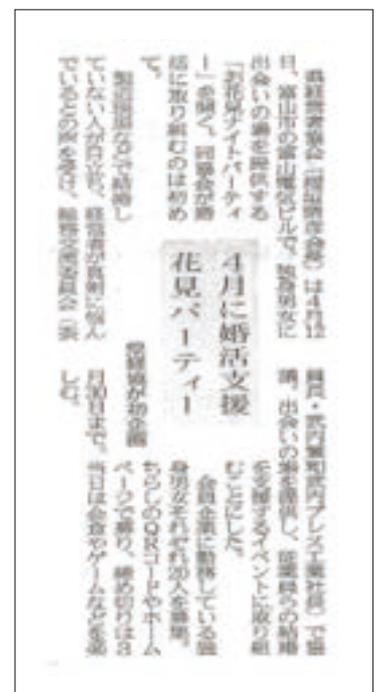
全国的に若者の未婚化・晩婚化が進行しており、当経協の会員企業においても共通の悩みになっているため開催について検討を進めていたもので、当経協としては初めての試みであり、新聞にも取り上げられた。



参加者は、美味しい料理やゲームを楽しみながら、素敵な相手を見つけようと積極的にアプローチしていた。最後に意中の1人をカードに書き込み、見事、3組のカップルが誕生した。

当日は絶好のお花見日和でもあり、イベント終了後に花卉の舞う松川べりへ繰り出す参加者のグループもあった。

申込締切後の問い合わせが多かったため、2回目の開催を10月予定で準備している。



2014年2月18日 北日本新聞

連合富山との懇談会

連合富山と富山県経営者協会との懇談会が3月3日(月)、ANAクラウンプラザホテル富山で開催された。富山経協からは稲垣会長はじめ、武内、綿貫、笠井、佐々、松岡副会長、佐藤専務理事の7名が、連合富山からは尾谷会長はじめ10名が出席した。

はじめに尾谷会長から「自公政権のデフレ脱却をめざす金融緩和や公共投資への財政出動政策で、景気回復への期待感が強まり円高から円安に転じ、輸出関連産業を中心にゆるやかに業績回復が進んでいる。働く者を取り巻く環境も2月の富山労働局の発表では、県内の有効求人倍率が1.27倍となり、新卒



者の内定率も昨年と比べ改善している。しかしながら、働く者の3人に1人がパートや派遣など非正規労働者で、その内、年収200万円以下で働く者が1,090万人になり、規模間・地域間・男女間などの格差間

Keikyo 行事レポート

2014年 1月21日～4月12日

	事業名	委員会名	開催日	場所	参加者数
会 議	人事・労務政策委員会「定例委員会」	人事・労務政策	2月17日(月)	富山経協・研修室	18名
	労働法関連法制研究部会	人事・労務政策	2月26日(水)	富山経協・研修室	14名
	IT・インフラ委員会「定例委員会」	IT・インフラ	2月27日(木)	富山経協・研修室	12名
	連合富山との懇談会		3月3日(月)	ANAクラウンプラザホテル富山	7名
	幹事会		3月3日(月)	富山電気ビル	67名
	理事会		3月3日(月)	富山電気ビル	12名
	品質管理委員会「定例委員会」	品質管理	3月11日(火)	藤堂工業(株)	23名
	経営企画委員会「定例委員会」	経営企画	4月10日(木)	富山経協・研修室	8名
講演・見学会	高等支援学校見学会	人事・労務政策	1月21日(火)	富山高等支援学校	9名
	高等支援学校見学会	人事・労務政策	1月24日(金)	高岡高等支援学校	9名
	安藤国威氏を囲む会	総務交流	2月28日(金)	富山経協・研修室	18名
講座・セミナー	品質管理入門講座<応用編>	品質管理	1月22日(水)・29日(水) 2月5日(水)・19日(水)	富山経協・研修室	24名
	2014年労使交渉セミナー	人事・労務政策	1月30日(木)	富山経協・研修室	21名
	係長・主任実践コース(第2回)	教育	2月18日・19日(火・水)	富山県市町村会館	47名
	管理職マネジメント研修	教育	2月21日～22日(金～土) 3月12日(水)	富山県農業総合研修所	28名
	労働法実務研修会(第4回)	人事・労務政策	2月26日(水)	富山商工会議所ビル	50名
	中小企業のための情報セキュリティ対策セミナー	IT・インフラ	2月27日(木)	富山経協・研修室	30名
	購買管理実践コース	教育	3月4日(火)	富山商工会議所ビル	25名
	CS顧客満足基礎セミナー	教育	3月6日(木)	富山経協・研修室	15名
	改善レベルアップセミナー(応用編)	教育	3月13日(木)	富山商工会議所ビル	49名
	2014年新入社員講習会	教育	4月2日(水)	富山県市町村会館	144名

題の是正も依然として進んでいない。今春季生活闘争では、賃金カーブの維持と1%の賃金の引き上げと、格差是正・配分のゆがみの是正ですべての働くもののディーセントワークの実現を求める」とし、具体的には「①賃金の引き上げと一時金の支給、②中小・地場企業の賃金改善、③非正規労働者の賃金・労働条件の改善、④ワーク・ライフ・バランスの実現、⑤最低賃金の引き上げを求める」と挨拶した。

これを受けて稲垣会長から「長期にわたるデフレ経済のもと、新興国企業の追い上げを含めたグローバル競争の激化、6重苦といわれる事業環境の悪化、とりわけ行き過ぎた円高が続いたことにより、もの

づくり産業を中心に非常に厳しい事業運営が続いてきたが、アベノミクスによって円高の是正、デフレからの脱却により、日本経済に明るさが見えてきており、経営者は設備投資を含めた事業基盤の強化を進める機運が出てきている。景気の回復が出てきている今こそ企業は、雇用の拡大、賃金の引き上げなどを進め、その社会的責任として果たしていくことが求められている。しかし、賃金などの労働条件は、他社の動向を意識することなく、労使が自社の経営状況に即して徹底的に議論し、決定するものである」と挨拶した。

その後自由討議に入り、県内雇用情勢、生産動向など幅広く意見交換を行った。

総務交流委員会

■経営者勉強会

2月28日(金)、18名が参加して「安藤国威氏を囲む会」を富山経協・研修室で開催した。

アセアン諸国進出を検討している会員企業を対象に、元ソニー社長の安藤国威氏とJ A S E A N (ジャセアン) 代表の澤木恒則氏をお迎えして、現地の旬な情報や、成功・失敗双方の具体的事例を挙げながら講演していただいた。

両氏の講演要旨は以下の通り。

安藤氏：日本はこのフラット化する世界において必ずや再生すると確信している。日本の60年代～

80年代の成長が今アジアの国々で再現されており、これから日本企業が発展を目指して進出していくのは欧米ではなく、アセアンになる。目指すべき方向は2つ。①日本の成長戦略はアジアの成長を取り込んでいくところにある。②SME(中小企業)が新しい役割を担う。日本の再生の鍵を握るのは中小企業である。

澤木氏：海外進出で成功するためのポイントは3つ。①国選び。親日度、市場規模、成長性、人口



ボーナス、賃金等様々な要素を考慮して自分で判断する。②勝てるビジネスモデルをしっかりと考える。自分達しかできないこと、競争優位がないと勝てない。③現地人パートナー選び。いいパートナーと組むことは非常に重要で、勝っている会社は皆、ここがうまくいっている。



講演後の懇親会では、参加者と講師および参加者同士の情報交換が盛んに行われた。

人事・労務政策委員会

■定例委員会

2月17日(月)、綿貫委員長はじめ18名が出席して富山経協・研修室で開催した。

三協立山(株)人事部長の数川雅敏委員、トナミ運輸(株)常務取締役の高田和夫委員より、それぞれの会社が実際に直面している人事・労

務の課題について紹介があった。続いて、2グループに分かれてグループディスカッションを実施し、委員各社が抱える具体的な課題や対応策について活発な情報交換、意見交換が行われた。



■高等支援学校見学会

1月21日(火)、布目副委員長はじめ9名で富山高等支援学校(旧大沢野工業高校跡)を訪問した。

1月24日(金)には、綿貫委員長はじめ9名で高岡高等支援学校(旧二上工業高校跡)を訪問した。



▲富山高等支援学校



▲高岡高等支援学校

両校は障がいの程度が比較的軽い知的障がいのある生徒を対象として、卒業後の一般企業等への就職など社会的・職業的自立に向けた支援を重視する、高等部のみを置く特別支援学校で、2013年に日本海側で初めて設置された。

学校の概要や教育カリキュラムについて説明を受けた後、教室や実習室を訪れて、就業に必要な技能を身に着けるため実際に行われている授業の様子を見学した。教職員の方々との意見交換では、活発なやりとりが行われた。

■2014年度労使交渉セミナー

1月30日(木)、「2014年労使交渉・協議に向けての経営側のスタンス」をテーマに、21名が参加し富山経協・研修室で開催した。

日本経済団体連合会 労働政策本部 坂下多身主幹は、①今年、デフレからの脱却と持続的な経済成長の実現に向けた最大のチャンスを迎えている。昨年の「経済の好循環実現に向けた政労使会議」で経団連がマクロ的な見地から述べたとおり、アベノミクスによってもたらされた企業収益の改善を、設備投資や雇用の拡大、賃金の引き上げにつなげていくことが重要である。②企業労使は、経済の好循環実現に向けたマクロ的な認識を踏まえて労使交渉・協議に臨むことになるが、賃金などの労働条件は労使が自社の経営状況に即して徹底的に議論して決定するものである。賃金は、基本給をはじめ諸手当や賞与・一時金、福利厚生費なども含め、自社の支払能力に基づき判断・決定するとの原則は揺るがない。③そのうえで、業績が好調な企業は、拡大した収益を設備投資だけでなく、雇用の拡大、賃金の引き上げに振り向けていくことを検討することになる。その際、賃金の引き上げについて、ここ数年と異なる対応も選択肢となり、実に多様な対応が考えられるとした。



■労働法実務研修会(第4回)

2月26日(水)、「『労働契約法』『高齢者雇用安定法』改正に対応する就業規則の見直し、作り方」をテーマに50名が参加して、富山商工会議所ビルで開催した。



第一芙蓉法律事務所の木下潮音弁護士は、労働契約法や高齢者雇用安定法の改正に伴って各社が改正に合わせた制度を就業規則化することが求められており、制定した就業規則の効力は労働契約法により判断されるとしたうえで、多様な労働契約が存在する状況下では就業規則の適用範囲を明確化し、多様な労働時間の組み合わせも原則就業規則にすべて明示が必要で、休日についても法定休日と所定休日を明示することが望ましいとした。

また、定年後継続雇用の手続きや再雇用条件を決める手続きを定めたり、無期転換や正社員への登用制度を設けたりする際に留意すべきポイントについて、就業規則の文例を交えて紹介した。

さらに、雇止めや解雇についても、雇止め基準を個別契約だけでなく就業規則に明記したうえで年齢や更新回数の上限を定めた場合は例外を作らないこと、解雇理由は就業規則に必ず記載すべき事項であるとした。懲戒処分については具体的な事例や判例を交えて、懲戒規定を見直す際の注意点を解説した。

教育委員会

■第2回係長・主任実践コース

2月18日・19日(火・水)、47名が参加して、富山県市町村会館で開催した。

講師の佐藤充昶(たかてる)ヒューマン・クリエイト代表より、今日の企業環境変化と係長主任の役割、仕事の管理と問題解決、人間行動の理解と部下育成、リーダーシップと職場の活性化などについて講義が行われた。また、係長・主任が実際に直面する課題を想定したケーススタディを用いて、グループワークをしながら、活発な



意見交換を通して理解を深めた。

この中で、①目標を達成するためには、資源を効果的・効率的に活用する、②企業利益を生むためには、顧客満足やサービスの向上、品質管理を徹底することで顧客がついてくる、③問題・課題解決や改善活動が活発に行われる職場の風土づくりが一層重要である、④人の扱い方については、外部要因と個人の価値観・資質・性格・過去の経験などの要因が複雑にからみ合うので、個別の対応が必要である、⑤積極的傾聴が大切で、部下指導・コーチングの際には、部下自身の考える力を養うことが必要であるとした。

(「参加者NOTES」15頁掲載)

■購買管理実践コース

3月4日(火)、25名が参加して富山商工会議所ビルで開催した。



「購買担当者の基本実務と実践」について、公益財団法人日本生産性本部 主席経営コンサルタントの藤本忠司氏は、購買部門の責任と役割は変化しており、経済環境が大きく変化して売上高を伸ばすことが難しくなる中で、単に物品の調達を行うだけの部門でなく利益貢献部門となることが期待されているとしたうえで、調達改革を進める際には必ずトレードオフに直面することや、ビジネスパートナーとの関係見直しが必要になることなどを、具体的な成功事例・失敗事例を交えて解説した。



参加者NOTES

教育委員会

「係長・主任実践コース」を受講して

北電テクノサービス株式会社
大野支社 宮澤 博



本講義を受講し、今日の企業環境変化に対応し、経済や新しい技術等を分析・把握しながら顧客の欲求を満たすこと。また、より良い商品・サービスの提供を行うことで顧客がついてくることを話されていた。その中で係長・主任の役割心構えでは、職場を健全な方向に導いていける判断や意識的に考え行動を行い、組織における立場や役割の確実な遂行の大切さを改めて感じた。

人との接し方においても、個人の価値観・性格・経験など人それ

ぞれである。指示一つ出すにしても、指示する相手と意思疎通を図り適切なアドバイスを与え成功に導く。成功すれば褒め、失敗すれば一緒に考え次回の参考とする。といったPDCAサイクルの重要性を考えさせられた。

また、グループ討議を行うと、グループ内でもグループ外発表でもそれぞれの意見があり違う考えを聞くことができ、人それぞれだと実感できて良かった。

組織や職場が目的を達成するためには、目的の共有・職場の一体

感が不可欠である。そのためには日頃からのコミュニケーションが大切である。コミュニケーションを取り職場内で言いたいことを言える。また、言いやすい職場の雰囲気を作ることが成功への近道だと思った。講義の中でも話されていたが、積極的傾聴が大切で個々が考える力を養うことが必要だと思う。

講師の方がよく「温故知新」と話されていた。温故知新とは、昔のことをよく学び、そこから新しい知識や道理を得ること。また、過去の事柄を研究して現在の事態に対処することである。職場内でも昔からの作業基準書等が引き継がれている。それを変わるとまではいかないが、今の良いところを残し仕事がさらに効率よくできるよう改善していきたい。

また、調達コストの削減が利益に与える影響を実際に計算するワークで購買部門の役割の大きさを再認識したほか、物品の適正な市場価格について検討するワークでは自らの購買センスを確認した。

■CS顧客満足基礎セミナー

3月6日(木)、15名が参加して富山経協・研修室で開催した。



ヒューマックス経営考房代表の羽田野正博氏は、経済活動のグローバル化によって製品やサービスの「供給過剰」が慢性化し、需要側＝市場・顧客側へと主導権が移った時代にあっては、「安くても良いものを作れば売れる」というブ

ロダクトアウトの発想を捨てて、あらゆる部門・あらゆる業務を「顧客満足・顧客価値」の視点から見直すことが最重要の経営課題であるとしたうえで、ビジネスモデルをどのように捉えるのか、顧客価値を実現するために必要なことは何なのか、チームで価値観を共有して成果を上げるにはどうすれば良いのか、などについて事例やグループ討議を交えながら分かりやすく解説した。

■改善レベルアップセミナー (応用編)

3月13日(木)、49名が参加して、富山商工会議所ビルで開催した。この講座は、9月に開催した「改善セミナー基礎編～改善力養成講座～」に続く応用編で、改善活動を「指導・推進・牽引」するための具体的なノウハウを研究し、改善活動の推進役・改善エキスパートの育成や、改善活動のレベルアップを実現するために実施している。



日本HR協会K A I Z E N事業部「創意とくふう」編集人 東澤文二講師は、手間をかけず、カネをかけず、知恵を出して「工夫」する改善が必要であるとした上で、改善のレベルアップのためには、「改善を積み重ねる連続改善」と「改善を組み合わせる複合改善」が有効であるとした。また、参加企業の改善活動で生じる個別の問題・課題や改善活動を指導・推進するための方策について具体的な事例に基づいて詳しいアドバイスが行われたほか、受講者が改善事例を書き出し、セミナー終了後に講師が取りまとめて後日、改善の定石集としてフィードバックした。

■2014年新入社員講習会

4月2日(水)、県内企業各社の新入社員144名が参加して富山県市町村会館で開催した。

三菱レイヨン(株)富山事業所 佐藤一三事務部長(当協会教育委員会委員)による挨拶の後、(株)ユニオンランチ遊道義則社長に「『目標』と『目的』～成功体験を積み上げる生き方を!～」と題して講演頂いた。この中で、目標を達成するポイントとして①手に入れたものを明確に決める、②今の自分を正しく把握する、③計画を立てる、④達成を五感でイメージする、⑤「絶対に達成するぞ!」と固く誓う、⑥計画を実行する、達成するまで実行し続けることの重要性を解説した。また、組織の目



標・目的に個人の目標・目的を一致させる、仕事は「一生懸命」ではなく「真剣」に取り組むなど、企業人としてのあり方についても指導と激励があった。

その後、(株)インテック稲田恵子総務部長から挨拶・言葉づかい・身だしなみなど職場のマナー・ルールの重要性について指導を受けた。マナーの基本的な考え方やお辞儀の作法、電話をかける際、受

ける際のポイントについて学んだ。

午後からは、前富山県警察本部長 山岳警備隊長の相田正氏に「遭難救助に命をかけて」と題して、命懸けの救難現場での体験談を紹介頂き、仕事に対する覚悟を新たにしました。松田マネジメント・アドバイザーからは、企業人としての心構え、仕事を通しての自己実現などについて学んだ。



品質管理委員会

■定例委員会

3月11日(火)、町野委員長はじめ23名が出席し、藤堂工業(株)において開催した。



委員会では、品質管理委員会規則の一部改訂および2014年度講座・担当委員決定、次回定例委員会について審議・確認した。4月1日より玉生副委員長に代わり、石井政則氏(コーセル(株)品質管理部長)が就任されることを報告した。

委員企業見学では、藤堂工業(株)社長 藤堂利一氏から挨拶をいただいた後、飯野取締役経営企画室長から会社の沿革、事業内容につ

いて説明を受け、トライアル、調心クラッチ、保持器、金型等の各工場を見学した。見学後、同社砂原常務取締役を交え、質疑応答ならびに意見交換を行った。

■品質管理入門講座<応用編>

本講座は、「品質管理入門コース講座」を平成25年度より名称変更し、「品質管理入門講座」<基礎編><応用編>として開催した。<応用編>は1月22日(水)から

参加者NOTES

品質管理委員会

「品質管理入門講座(応用編)」を 受講して

富山化学工業株式会社
富山工場 品質管理部 品質管理グループ 奥村 ふみ子



本研修は、毎年1回開催されているものですが、今回は今までと趣向を変え、最初から最後までグループディスカッション(GD)形式を取り入れ、4日間の研修の内、80%以上受講し、テストに合格すれば、「品質管理初級」の資格認定書をいただけるというものでした。これは、最近の企業体質傾向といえる「コミュニケーション不足」をこの場においても訓練していこうという主催者側の配慮で実施されたものでした。

「応用編」ということで、QCの基礎的知識のある人が対象で、いろんな業種の企業から24名が参加しました。10代から50代までの人で年齢層にも幅があり、また、新入社員から管理職までさまざまな立場の方々と、毎回、GDで議論し、その成果物を発表するといったプログラムでした。

講師から特に要望されたことは、この研修を通して「コミュニケー

ション能力を高める」「プレゼン能力を高める」「QC的ものの考え方で問題解決ができるようになる」ことでした。また、『小集団活動に取り組む中で、どのグループも一番苦勞し停滞しているのが「テーマ選定」と「要因解析」の2つのステップであり、これについては特に重要なポイントを習得してほしい』と繰り返し指導されました。

研修内容は、実際に自分の職場の問題点や部署方針管理の課題などからテーマを1つ取り上げ、4日間の研修で「テーマ選定」から「要因の解析と検証」までを座学と演習、GD、宿題そして発表から学び取るというものでした。私も業務を遂行していく中で、今一番困っていることをテーマに取り上げ、現場の協力を得ながら、実践しました。

私は、会社の小集団活動の事務局担当であり、小集団活動を活性

化させるために、「メンバーの成長と現場力の向上」を今年度スローガンに掲げ推進してきました。推進者の役割として、各グループへのアドバイスや支援、指導は欠かせませんので、講師の向川先生がどのように指導されるのかを注目して聴いていました。

先生は、各人のそれぞれのテーマに対し毎回発表の度に、『この部分は非常にいいなあ!』と最初に良いところを褒め、その後『だけど、この部分はなぜこう思った?それだったら、こうの方がいいと思うよ!この部分をこう変えることで、こんなふうにつながっていくよ!』と、即効的で確かなアドバイスをされておられました。各人の発表を真剣に聴き、笑顔を絶やさずに親心をもって丁寧に指導される姿勢は、とても素晴らしく、今後、私もマネていかなければならない大切なことだと痛感致しました。

今回の研修を受けて学んだこと、発見したことを、今後の小集団活動に活かしていくためにも、積極的に行動し、実践していきたいと思えます。ありがとうございました。

2月19日(水)までの4日間の日程で、富山経協・研修室を会場に24名が参加して開講した。受講生は、「品質管理」の基本、QC7つ道具を学び、グループディスカッションを中心に模擬改善活動や、活発な異業種間交流を行った。

企業をあげての改善活動が根付くために、人材の育成の重要性が一層要求されるようになってきており、4月開催の<基礎編>から取り入れた認定試験に全員が合格し、「品質管理初級」の資格を手にした。(「参加者NOTES」17頁掲載)



IT・インフラ委員会

■第4回定例委員会

2月27日(木)、齊藤委員長はじめ12名が出席し、富山経協・会議室において開催した。



齊藤委員長の挨拶の後、2013年度活動の総括と2014年度の具体的な活動内容の検討を行い、2014年度はITに関する諸問題により積極的に取り組むため、企業見学会・セミナーの開催や委員間の情報交換・意見交換を実施することなどを確認した。また、経営戦略と情報戦略との関連について知見を得ることを目指して、委員企業の情報システムの現状(システム構成・規模など)や情報システム部門の体制(人員・権限など)、抱えている課題、これまでに行ってきた取り組みなどを共有するためのワークシートを作成し、各社の状況を取りまとめることを確認した。

■中小企業のための

情報セキュリティ対策セミナー

2月27日(木)、30名が参加して、富山商工会議所ビルで開催した。

日本ネットワークセキュリティ



協会認定講師の吉田誠(株)よしだまこと事務所代表は冒頭、企業における情報セキュリティ対策の実態を紹介し、内部従業員のミス・故意による情報の漏えい・持ち出し事件は多発している。ひとたび情報が流出した際の被害は甚大になるとしたうえで、情報セキュリティ

の基本的な考え方や日常業務に潜む情報漏えいリスク、コンピュータを利用する際の脅威とその対策、企業に求められる情報セキュリティ対策などについて解説した。また、チェックシートを用いて自社のセキュリティレベルを確認し、現状に応じたセキュリティ対策の進め方について検討した。さらに、工場などで使用する制御システムのメインフレームからオープンシステムへの切り替えに伴うウイルス感染リスクとその対策、東南アジア諸国における情報セキュリティの現状について学んだ。

経営企画委員会

■2014年度第1回委員会

4月10日(木)、守山委員長はじめ8名が出席して富山経協・会議室において開催し、2014年度研究テーマの審議と、「ISO改正説明会」を行った。

守山委員長より、本日は2014年度研究テーマについてご審議をいただきたいとの挨拶があった。引き続き、経協専任講師である三輪昭氏より、2015年9月に改正となるISO9001について、目的とねらい、企業が新規格にどのように対応するか等の説明があった。今後会員企業を対象に改定内容と企業対応について周知を図っていくことを決めた。

次に2014年度の研究テーマにつ



いて事務局より「経営課題アンケート 現場力の実態」と「県の高度ものづくりマネジメント研修事業(案)」を資料に説明し、審議を行った。「現場力を高めるために企業、経営者は何をしなければいけないのか」をテーマと決め研究活動を進めることと、その一環として県の「高度ものづくりマネジメント研修」は当委員会が事務局を担当することを決めた。次回委員会は8月8日に開催する。

新会員の紹介

(50音順)

■ エムアールテクノサービス株式会社

所在地 高岡市吉久1-1-143
代表者 代表取締役 作道 和宏
設立 2005年(平成17年)7月7日
資本金 1,000万円
従業員 50名
事業内容 旅行事業、一般貸切旅客自動車運送事業、一般乗合旅客自動車運送事業



■ 学校法人 富山大原学園

所在地 富山市呉羽町6672-25
代表者 理事長・校長 増田 正夫
設立 2000年(平成12年)4月
従業員 28名
事業内容 ビジネス系専門教育、社会人教育



■ 株式会社 カターレ富山

所在地 富山市南中田368番地
富山県総合運動公園
陸上競技場内
代表者 代表取締役社長 清原 邦彦
設立 2007年(平成19年)10月31日
資本金 9,650万円
従業員 15名
事業内容 サッカーその他各種スポーツクラブの運営、競技興業、選手及び指導員の養成



■ 株式会社 富山サンダーバーズベースボールクラブ

所在地 富山市上野新町13番地
代表者 代表取締役社長 永森 茂
設立 2006年(平成18年)11月2日
資本金 9,325万円
従業員 6名
事業内容 プロ野球球団の運営



■ 北日本物産株式会社

所在地 富山市総曲輪三丁目1番7号
代表者 代表取締役社長 若林 均
設立 1942年(昭和17年)6月16日
資本金 2億円
従業員 70名
事業内容 LPガス・石油製品・住環境機器の販売及び附帯工事の設計施工



■ 株式会社ヌノムラ

所在地 富山市八日町247番32
代表者 代表取締役 布村 雅昭
設立 1985年(昭和60年)9月
資本金 1,000万円
従業員 5名
事業内容 プラスチック・ゴム機械部品及び包装資材販売、製薬工場向けクリーン用品販売



■ 三光合成株式会社

所在地 南砺市土生新1200番地
代表者 代表取締役社長 黒田 健宗
設立 1944年(昭和19年)9月18日
資本金 18億9,080万円
従業員 351名(富山県内)
事業内容 プラスチック製品の製造・販売及びプラスチック成形用金型の製造・販売



■ BBSジャパン株式会社

所在地 高岡市福田六家525
代表者 代表取締役社長 森山 明
設立 1971年(昭和46年)7月29日
資本金 1億円
従業員 160名
事業内容 自動車用アルミホイール製造



■ 中越レース工業株式会社

所在地 砺波市杉木二丁目50番地
代表者 代表取締役 山崎 勉
設立 1943年(昭和18年)9月20日
資本金 1億1,066万5,500円
従業員 43名
事業内容 刺しゅうレース製造



■ 株式会社 FASSE (ファッセ)

所在地 高岡市岩坪23番25
代表者 代表取締役 藤木 達司
設立 2005年(平成17年)9月
資本金 9,000万円
従業員 150名
事業内容 半導体製造装置(洗浄装置)の組立、検査、搬入、据え付け



会員の動き

(50音順) (敬称略)

■ 代表者の変更

ソニー生命保険株式会社 富山支社

支社長 加藤 高男 (前: 田原一行)

株式会社竹中工務店 富山営業所

所長 斎藤 考 (前: 増田道直)

中越パルプ工業株式会社

取締役 植松 久 (前: 加藤明美)

東洋紡株式会社 富山事業所

事業所長 吉川 雅敏 (前: 杉之尾晶)

株式会社 富山アメニティシステム

代表取締役社長 坂井 義昭 (前: 深澤文敏)

富山小林製薬株式会社

代表取締役社長 木村 典哲 (前: 秋月健一)

株式会社ナチマシナリーエンジニアリング

代表取締役 佐々木 誠 (前: 高見保雄)

日産化学工業株式会社 富山工場

取締役執行役員 富山工場長
岩田 武史 (前: 大野隆己)

日本カーバイド工業株式会社 魚津工場

魚津・早月工場長 向井 貴彦 (前: 富川哲志)

北陸コカ・コーラボロダクツ株式会社

代表取締役社長 百瀬 邦夫 (前: 広沢昌典)

株式会社ホンダ自販タナカ

代表取締役社長 浅生 忠和 (前: 高島健次)

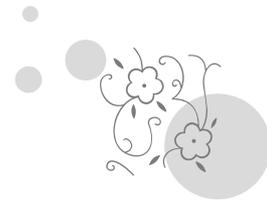
YKK AP株式会社 黒部事業所

執行役員所長 田原 建治 (前: 新関文夫)

■ 社名の変更

丸三製薬バイオテック株式会社

(前: 丸三製薬株式会社)



表紙の花

シママチキクザクラの花

菊桜の新品種

花卉の数が100枚以上あって、花形が半球形から球形になるサクラの品種群を菊桜と呼んでいます。菊桜はなぜか富山・石川の両県に集中して分布しており、2006年当時25品種が知られていましたが、中央植物園の調査で毎年のように新しい品種が発見され、現在は31品種に増えています。

本誌2012年4月号の表紙でご紹介したニューゼンオトメキクザクラは、入善町にある天然記念物「杉沢の沢スギ」林中で発見された新品種でしたが、今回ご紹介する桜は、とやまさくら守の会の武田宏氏によって上市町石仏の嶋町神社の境内で発見され、昨年9月に新品種として発表、今年3月に「シママチキクザクラ (嶋町菊桜)」と名付けられたばかりのものです。これで富山で発見された菊桜は6種類になりました。

特徴と観賞

シママチキクザクラはこれまでに知られていたヒヨドリザクラに似ていますが、花卉数が200枚以下であること、縁に細かい切れ込みがあること、花色がより明るく、花付きが良いことなどで異なります。加えて、60年以上経っている原木が高さ4mほどしかなく、樹形がコンパクトで花数が多いことから園芸的に優れた品種といえます。

花は4月下旬から5月上旬が見頃で、晴れた日の午後には華やかな花を北アルプスを遠景として撮影することができます。貴重な原木なので観賞の際に枝を傷めないよう、また駐車場所がほとんどないので周囲に迷惑をかけないようご配慮をお願いいたします。

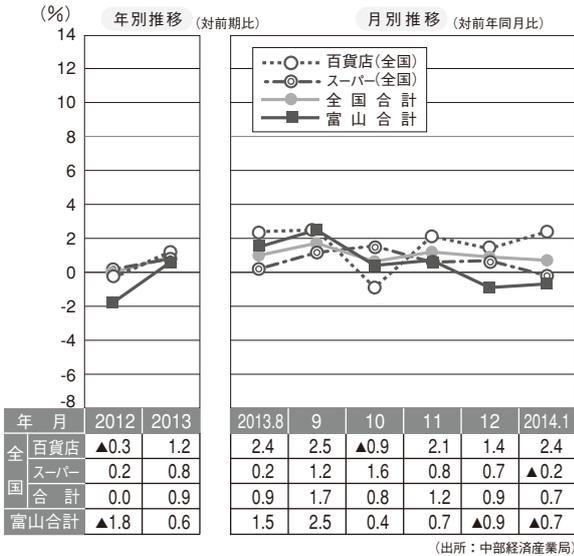
(富山県中央植物園 大原隆明)



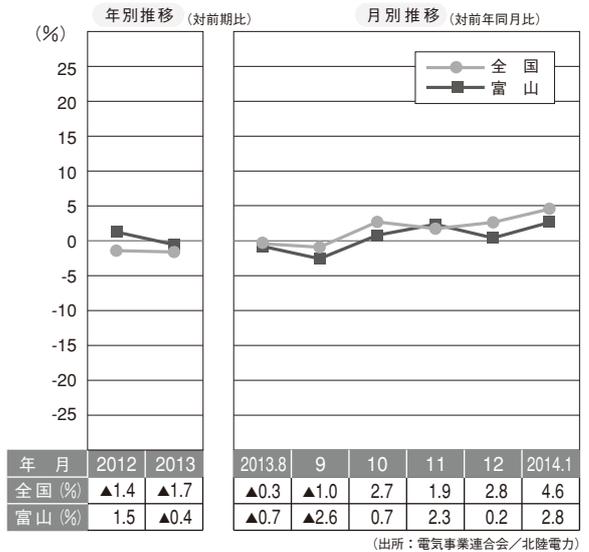
花付きが良いことも特徴の一つ

景況指標

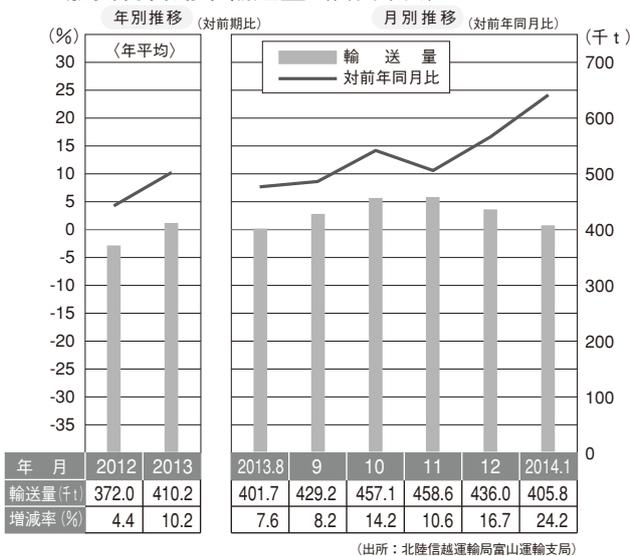
百貨店・主要スーパーの売上高



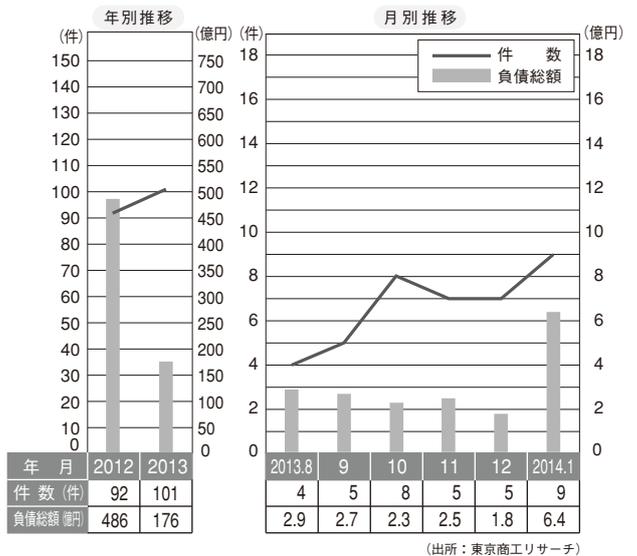
大口電力消費量 (製造業計)



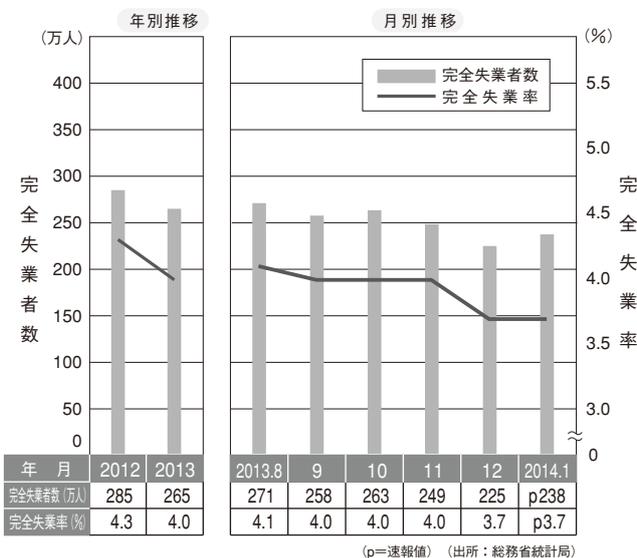
一般貨物自動車輸送量 (富山県内)



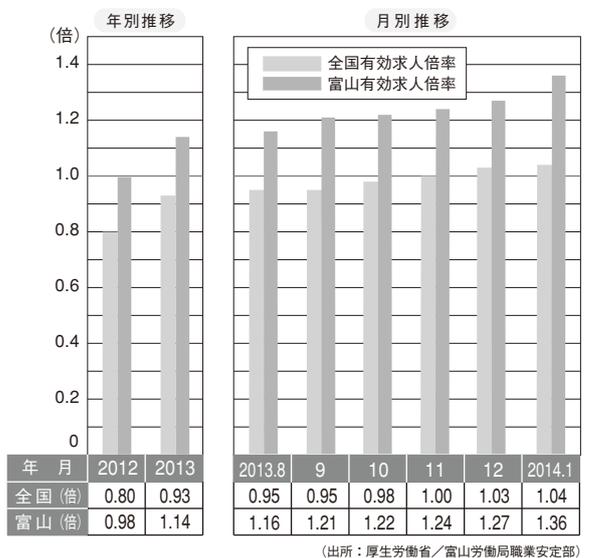
企業倒産 (富山県内) (件数と負債総額)



完全失業者数及び完全失業率 (季節調整値)



有効求人倍率 (パートを含む季節調整値)



一般社団法人 富山県経営者協会 第69回 定時総会

5月26日(月) 富山国際会議場、ANAクラウンプラザホテル富山

- 15:30～16:00 定時総会 (富山国際会議場 2階)
- 16:10～18:20 講演会・座談会 (富山国際会議場 3階メインホール)

『北陸新幹線開業を機に産業界はどう動くか』

講演会 16:10～17:10 座談会 17:20～18:20

講師：坂本 恒夫氏
(明治大学 経営学部 教授、
経営学博士)

石井 隆一氏 (富山県知事)
山浦 愛幸氏 (長野県経営者協会 会長、
株式会社八十二銀行 代表取締役会長)
町野 利道 当協会 副会長 (コーセル株式会社取締役会長)

- 18:30～20:00 懇親会 (ANAクラウンプラザホテル富山 3階「鳳」)

事業予定

2014年 4月17日～6月30日

詳しくはホームページ (<http://www.toyama-keikyo.jp/>)
「講座・セミナー案内」をご覧ください。

	開催日	時間	事業名	委員会名	場所	備考
会 議	4月22日(火)	15:00～16:20	人事・労務政策委員会「幹事会」	人事・労務政策	富山経協・研修室B	
	4月24日(木)	17:00～18:00	理事会		富山経協・研修室A	
	5月14日(水)	15:00～17:00	品質管理委員会「定例委員会」	品質管理	富山経協・研修室A	
	5月20日(火)	15:30～17:30	人事・労務政策委員会「定例委員会」	人事・労務政策	富山経協・研修室A	
	5月22日(木)	15:00～17:00	IT・インフラ委員会「定例委員会」	IT・インフラ	日本海ガス(株)岩瀬工場	
	5月26日(月)	15:30～20:00	定時総会・講演会・座談会・懇親会		富山国際会議場・ ANAクラウンプラザホテル富山	上記「おしらせ」参照
	5月27日(火)	15:30～17:00	教育委員会「定例委員会」	教育	富山経協・研修室A	
	5月29日(木)	15:00～16:30	環境委員会「情報交換会」	環境	富山商工会議所ビル	
	5月29日(木)	16:40～17:20	環境委員会「定例委員会」	環境	富山経協・研修室A	
	6月9日(月)	16:00～17:00	総務交流委員会「定例委員会」	総務交流	富山経協・研修室A	
講 座 ・ セ ミ ナ ー	4月17日(木) 5月16日(金)～17日(土)	9:00～17:00	管理職マネジメント研修	教育	富山県農業総合研修所	
	4月17日(木)・22日(火) 5月8日(木)・15日(木)	9:00～17:00	品質管理入門講座<基礎編>	品質管理	富山経協・研修室A	
	4月22日(火)・23日(水)	9:30～16:30	営業力基礎セミナー	教育	富山商工会議所ビル	
	4月24日(木)・25日(金)	13:30～16:30	開発現場で役立つ品質工学活用講座	品質管理	富山経協・研修室A	
	5月23日(金)	9:30～16:30	ビジネス・マナー習得セミナー	教育	富山商工会議所ビル	
	5月28日(水)	13:30～16:30	第1回人事・労務管理セミナー	人事・労務政策	富山経協・研修室A	
	5月30日(金) 6月6日(金)・20日(金)	9:00～17:00	実践しながら学ぶ統計的手法活用講座	品質管理	富山経協・研修室A	
	6月4日(水)・5日(木)	9:30～16:30	中堅社員活性化コース	教育	富山商工会議所ビル	
	6月10日(火)	9:30～16:30	IE手法による生産現場の改善セミナー	教育	富山商工会議所ビル	
	6月18日(水)	13:30～16:00	第1回労働法実務講座	人事・労務政策	富山商工会議所ビル	
6月24日(火)	9:30～16:30	仕事の基本「報連相」セミナー	教育	富山商工会議所ビル		

「富山経協」vol.811

2014年(平成26年)4月号
2014年4月15日発行(隔月発行)

一般社団法人 富山県経営者協会

〒930-0083 富山市総曲輪2丁目1番3号(富山商工会議所ビル 別館5階)
TEL (076) 421-9588 FAX (076) 421-9952ホームページ <http://www.toyama-keikyo.jp/>Eメール info@toyama-keikyo.jp